

# 圓福寺報



圓福寺報 第四十三号

平成十七年一月一日発行

発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺

千葉市稲毛区穴川町三七五 TEL(二五二)九一八一

E-mail: enpukuji@come.bnet.co.jp

http://www.bnet.co.jp/enpukuji/

平成十七年 元旦

## 目次

年頭法話	頁
「おたがいさま」	2
第七回四国あるき遍路の旅	
「四国遍路の旅」	4
齋藤加代子さん	
「大本山研修記」	7
多部田町 菅野光夫さん	
全国花園会女性部大会	8
あやめ台 永久保まさ美さん	
涅槃精舎毎歳法要	10
第20回花園会ゴルフ大会報告	11
平成十七年年間行事案内	12
「写経会」「ご詠歌」「土曜会」案内	13
——参加者募集中	
お寺と和尚の日録抄	14
土曜会「冬の俳句会」より	14
平成十六年回表	15
第八回四国あるき遍路のご案内	15
編集後記	15
圓福寺新年会のご案内	16

※表紙は、星久喜町 吉田 和子さんの作品です。



年頭法話  
「おたがいさま」

の地震の  
ときの経  
験が生き  
ていて、

新潟県中越地震から二ヶ月が過ぎました。学生時代に長岡に住んだことがあり、外壁は波トタン張り、内壁は薄いベニヤ張りの安下宿はどうなっているだろうと遠くから心配しています。新潟はこれから雪の季節を迎えます。豪雪地帯ですので冬は雪下ろしをしなければなりません。そんなことを思い出すと、これから被災された人たちはどうするんだろうとまたまた心配になっています。

遠くから心配することしかできない私と違って、新潟にはたくさんのボランティアの人が入っているようです。阪神淡路



ボランティアを受け入れる側の体制もきちんとしているようです。そんなボランティアの中で、神戸から来た人が言っていました。「私たちが被災したときに、たくさんの方のボランティアをいただけましたので、今度は私たちがボランティアをしようと思ったのです。こんなときは『おたがいさま』ですから・・・。」

「お〇〇さま」いじげ

ここにも、「お〇〇さま」ことばがあつたと、気づかされました。圓福寺子屋のときに、子どもたちに話した「おかげさま」の話では、目に見えないけど大切ななくてはならないもの。お弁当を食べるときにお母さんの姿は見えない

けど、お母さんがいないとお弁当はできない。そんな目に見えないかげの部分はとても大切だから、丁寧に言うために頭に「お」をつけます。でも、「お」をつけたぐらいでは足りないのです、おしりに「さま」までつけるんです、と。

考えてみると、おつきさま、おひさま、おほしさま、おとうさま、おあさまなど、たくさん思い浮かびますが、最近聞くことが少なくなりしました。

そんな時、ボランティアの人の「おたがいさま」を聞いて、「たがい」も「お〇〇さま」ことばになると気づいたのでした。

子ども同士がけんかしても、「子どものことですから、お互い様ですよ。」なんて言いました。困っている人に手を貸してあげて御礼を言われたら、「おたがいさまですから。」と言いました。

## 環境・時間へもおたがいさま

それどころか、

私たちの身の回りは「おたがいさま」だらけではありませんか。



【植物】二酸化

炭素を吸収して、酸素を作ってくれたり、私たちの食べ物になつてくれる。私たちは、種をまいたり、肥料や水をあげたり、と「おたがいさま」

【動物】私たちの食べ物になることはもちろん、ペットは「コンパニオンアニマル」といわれるように、私たちに癒しを与えてくれます。

動植物だけではありません。新潟の被災地の映像がテレビで流されるのを見ると、私たち人間の営みがいかにちっぽけなものか、頑丈に作ったはずの道路や家が一瞬にして崩れ去ってしまう。地球の

ほんの上っ面に私たちの生活の場があることをまざまざと見せてくれました。宮崎駿監督の「風の谷のナウシカ」では、「どんな恐ろしい武器を持っても、たくさんのかわいそうなロボットを操っても、土から離れては生きられないのよ。」と言っていました。土地開発で傷つけたり、廃棄物で汚してばかりですが、私たちは大地の恵みをいただいで生かしてもらっています。その大地、地球に対しても「おたがいさま」と言えるようになりたいものです。

また、「おたがいさま」は、時間にも当てはまります。

「こどもも叱るな来た道じゃもの、年寄り嫌うな行く道じゃもの」、私たちはこどもを育てる、子育てをするといえます。なにか一方的なように思いがちですが、子どもを育てることで親として成長し、人

として成長していくことを考えると、子どもに対しても「おたがいさま」。

バスに乗るのに手間取っているお年寄りを前にして、早くしてくれないかなと思ったり、コンビニのレジで小銭を出すのに手間取っているお年寄りがいるといらいらしたり……。それもいずれ自分の姿と思えば「おたがいさま」と思える余裕が生まれてきます。

## 共生

最近、「共生」ということばが使われます。学校の授業などでも取り上げられているようです。共に生きるということですが、そのころは「おたがいさま」だなどボランティアのことばかり気づかされませんでした。





第1日目の歩行距離

バス停「浄瑠璃寺前」

0.12km

四十六番 浄瑠璃寺

1.00km

四十七番 八坂寺

4.62km

四十八番 西林寺

3.20km

四十九番 浄土寺

1.75km

五十番 繁多寺

0.78km

バス停「畑寺」

計 11.47km

第七回四国あるき遍路の旅



第七回目の四国あるき遍路は、「菩提の道場」といわれる伊予の国（愛媛県）です。

前回、前々回と、修行の道場にふさわしく雨に恵まれての歩きだったのが、悟りの国愛媛は3日間とも好天に恵まれて歩くことができませんでした。

札所は、宇和町周辺・久万周辺・松山周辺と離れており、電車・バスでの移動と、山越え遍路道の組み合わせとなりました。景色も、車窓から海が見えたり、紅葉の山寺があったり、咲き残りの朝顔や山道ではリンドウが可憐な姿を見せてくれたりと変化に富んだものでした。

四国遍路の旅

斎藤 加代子

十一月二十七日（土）から二十九日（月）、二泊三日の歩き遍路の旅に初めて参加した。一行十五名である。一人旅とは違った面白さがあった。私にとっての遍路とは、自分探しの旅なのだ。遍路に行く度に自分を否応なしに突きつけられる。解りきっている自分を、改めて突きつけられると「やっぱり」なんて妙に納得してしまふ。

ところどころで今回の道名高い愛





仏木寺への遍路道にて

媛県松山市から始まった。予定は四十一番から五十番迄の十カ寺である。宿泊地と時間の関係で、巡る順序が変則的に成り、四十六番浄瑠璃寺から五十番繁多寺迄の五カ寺が第一日目の予定と成った。予定表に、時間によっては途中で切り上げる場合があります。と有ったが、とんでもない、参加者の素晴らしい健脚ぶりは、最後の日まで変わる事無く驚くばかりで有った。

二日目は四十一番龍光寺から四十三番の明石寺までの三カ寺であ

る。龍光寺はJR予讃線、予土線と乗り継ぎ宇和島から務田駅へ出る。そこからずっと歩きに入る。四十二番の仏木寺を出て齒長峠越えが今日のクライマックスとなる。同行の上條さんは無理をしないと云うことでタクシーを利用する事になり、お陰で私は、手荷物を預かって頂け、有りがたく大助かり



四十二番仏木寺にて

### 第2日目の歩行距離

- JR 予土線「務田駅」  
1.83km
- 四十一番 龍光寺  
2.76km
- 四十二番 仏木寺  
14.00km
- 四十三番 明石寺  
1.50km
- JR 予讃線「卯之町駅」

計20.09km

一日に何本も走っていないバスを利用しての四十四番大宝寺と四十五番岩屋寺である。帰りの飛行機の時間が決まっているので、なに

だった。四十三番の明石寺が一番印象に残っているお寺と成った。山門から本堂迄の左右は、夫々の色にもみじが彩られて、もみじ寺と名付けたいほどの眩さだった。

散らんとす  
極みの清（すが）さ  
山もみじ

三日目は二カ寺だが、

十一月も終わりというのに小春日和の連日だ。朝は三度と吐く息が真っ白だったが、四十五番岩屋寺から四十四番大宝寺への山歩きをしていると、体中大汗で、顔や首を伝う汗は、乾くと塩に成り、唇の周りを舐めると塩の味がする。



やら急かされるものを感じる。伊予鉄バス久万行きに乗る。途中、砥部焼の観光センターなどあり、下車して窯場など見て歩きたくなったが、又の機会を願って目を瞑る。



この辺りの小さな野花はみんな色濃くそして澄んでいた。十センチに満たない茎に紫の花を付けたリンドウが山を背に、一輪また一輪と太陽を浴びて咲き、道中の慰めとなり、そしてここは誰にも犯させないぞと、言わんばかりに咲き誇っていた。

山背負い  
リンドウ一輪  
我が世かな  
山中の歩きは苦しいが、峠を越

**第3日目の歩行距離**

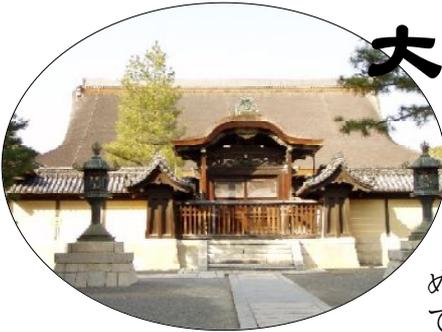
- バス停「直瀬」 1.30km
- 四十五番 岩屋寺 6.50km
- 狩場の集落 (タクシー)
- 四十四番 大宝寺 1.33km
- JRバス停「久万中前」

**計9.13km**

えてみれば、不思議にその山が懐かしく成っている。何事も苦しい最中は仕方無い、呼吸を調べ焦らず弛ます他の事は考えず、ただ黙々とそこを成していけば、やがて峠は終わる。後にはそれが懐かしさと成って心を潤すことだろう。二泊三日の旅は無事に終わった。



# 大本山研修記

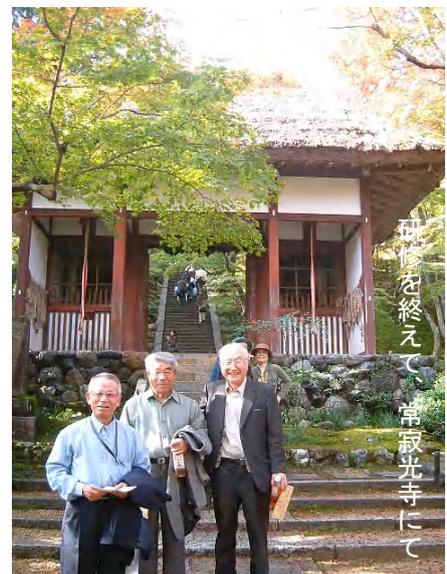


## 第43回花園会本部研修会に参加して

多部田町 菅野 光夫

十一月十日・十一日に京都の大本山妙心寺において、花園会本部研修会が全国から百七十名参加して開催されました。この研修会に当圓福寺からは河西達雄さん、塩月高泰さんと私の三人が参加させていただきました。私としては、初めての憧れの大本山でしたので胸が膨らむ一方、妙心寺での作法について行けるか一抹の不安もありました。

しかし、その危惧は晴れました。同行のお二人は今年六月の大本山妙心寺参拝奉仕団に参加され、その時に体験された朝のおつとめや食事の作法などについて事前に教えていただくことができたおかげです。少し安心して研修を受けられ、微妙殿でいただいた朝食（粥座）の作法では、宮城の農家で育った幼い頃の私が、両親から躰けられた食事作法にそっくりなのに驚きました。むしろ、飽食の現代の私も含め、食事作法の乱れについて考えさせられました。さて、研修会では「寺院役員のあるかた」を主題とした松井宗益総務部長さんの講演と五班に分かれての班別討議、続いて全体会議でのまとめの総括と、大変熱心に討議されました。それぞれお寺や寺院花園会で悩みを抱えているものの、それを解決しようとする意



欲を感じました。

今回の研修に参加させていただき、当圓福寺花園会で現在実施している土曜会・地藏盆・写経会・ご詠歌・禅童会・四国あるき遍路等々の活動がお寺を活性化する模範的な姿だと、あらためて感じた次第です。

最後に、まだ明けきらない朝の法堂での朝課・坐禅、そして後刻の花園法皇忌半齋・御詠歌奉詠・石笛奉納などめったに出会うことができない体験に感謝して、ご報告いたします。

大会テーマ「みんなで幸せになれるよう、心のこもった助け合いをしましょう。」

あやめ台

永久保 まさ美

十二月一日、二日の二日間、熱海で開催された、第十五回全国花園会女性部大会に参加させていただきました。「花園会女性部」？と聞きなれない名前でしたが、圓福寺からははじめての参加とこのとでした。

岐阜西教区女性部の美しい合唱の流れの中、管長猊下のご入場で開会式が始まりました。八百五十名の参加者は、その不思議なオーラに、静かな緊張と自然な祈りの心となりまし

た。

特別講演をされた樹木希林さんは、私たちと同信同行の花園会員とのことでした。お話



は、ご自分の家庭・子育て・孫のことに触れ、ご自身の仕事面では、自然体で生きたい。一歩退いて控えていると、何事も、ギャラ高も自然に決まると、楽しく明るく役柄の時と違い、楚々とした和服姿で、ちよつとレトロな女性性を感じさせ、この魅力でファン層も増やしたことでしよう。

パネルディスカッションのテーマは、「生きるということ」は。パネラーには、「子育てごっこ」の著者、三好京三先生ご夫妻と、樹木希林さん、「おかげさまの歌」を作曲された上村貞嘉師のお三方。個性豊かな皆様のお話を上手に引き出し、まとめられたコー

ディネーターの勝田玲子さんの手腕の見事さの中にこそ、何事も思うようにならない人生の方向性の見つけ方、「生きるということ」の具体例があったように感じました。

二日目には、三地区の女性部の活動として、

一、今年の風水害の地域にボランティアに出かけたり、義援金を募ったりした。

二、月に一回のお寺の掃除がきっかけで、花園会子ども会が育ったり、また坐禅会に参加したり、仏教の話聞く機会ができた。

三、台風被災者への炊き出しを継続する中、一人ではできないことも、たくさんの方が集まると、大きな力になることを体験した。





との発表がありました。

お寺はお葬式・ご法事のにきにしか縁のないものだと思っていた私にとつ

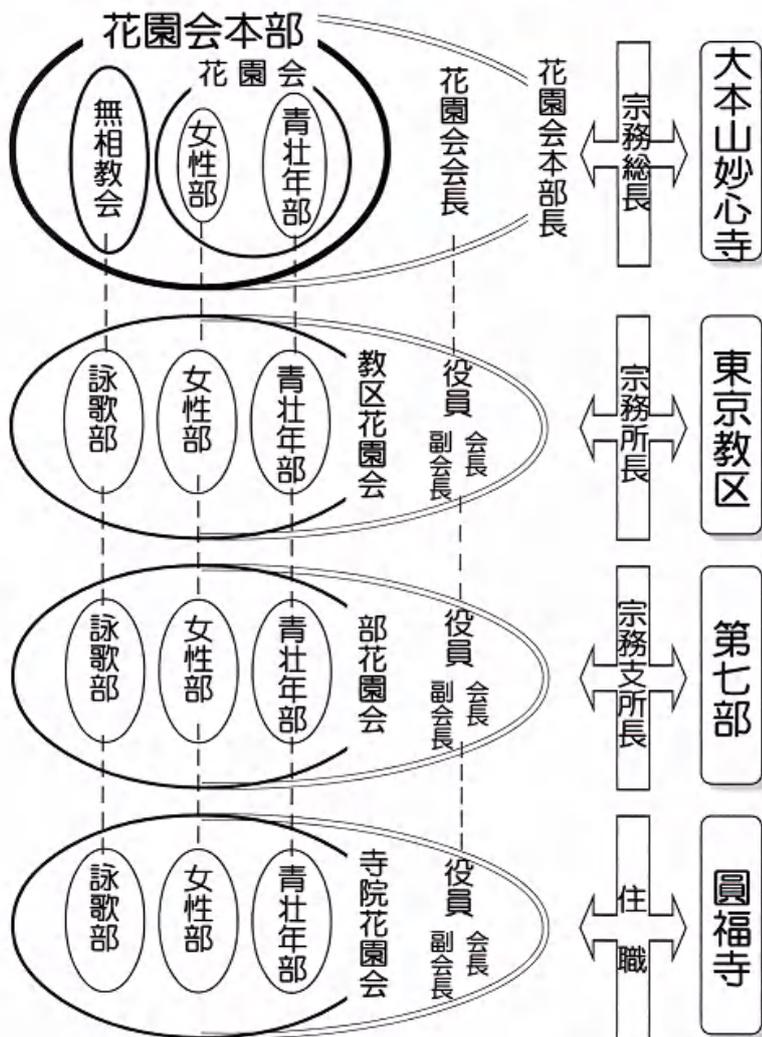
て、お寺に集まってくる人々がそのような活動をしていることに驚かされました。でも、ボランティアなどは、もともと宗教を背景としてあることを考えると、これが本来の姿に違いありません。

私事ですが、夫の死を機会にお寺さんとの縁ができ、ご詠歌などでお寺に出入りするようになりました。そして今回は、「花園会女性部」の大会に参加させていただき、あらためてお寺に対する考え方が変わりました。お寺は、生きていく人のためにあるのだと・・・。

今大会のテーマは、「みんなで幸せになれるよう、心のこもった助け合いをしましょう。」でした。私も、お寺や花園会を核にした活動に微力ながらもお手伝いしてあげたら、「おかげさま」でと生かされていることに対して報恩の実践になるのではと、深く気づ

かされました。女性部大会に参加させていただく機会をいただき、ありがとうございました。また、ご一緒した古原さん、木原さんとも、有意義な楽しい時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございます。

### 臨濟宗妙心寺派 花園会組織図



## 涅槃精舎毎歳法要

十月二十四日、新潟県中越地震のニュースも生々しい中、涅槃精舎毎歳法要が執り行われました。

涅槃精舎に永代供養されている方の毎歳法要と、生前戒名をいただく方々の授戒会（布薩会）が併せて営まれました。

布薩会では、日ごろの行いを懺悔するお参りと、仏教に帰依する誓いをお立てする加行礼拝の行を致します。導師が唱える仏様の名号に続いて、「慙愧懺悔六根罪障、滅除煩惱滅除業障」と念じながら、五体投地の礼拝を繰り返すうちに、次第に清浄なところになってまいります。

懺悔して清浄な身心になったところで、「三帰依文」を唱和し、仏教への帰依をお誓い致します。続いて、「延命十句観音経」の写

経をしていただき、仏教の基本的な戒「五戒」をお授けいたします。

その後、涅槃精舎に写経をお納めし、塔前にて総供養のお参りをして、一連の法要が終わります。

午後は、毎歳法要の記念コンサートが開催されました。今年のは、檀徒竹中靖さんの喜寿記念のフルートコンサートでした。

竹中さんは、ヨーロッパの古い街を題材に、たくさんのお絵画を描かれていた洋画家だとばかり思っていたのですが、かつてはオーケストラにも所属されていたフルート奏者でもあり、心臓の手術後に



も関わらず、力強いフルートを聞かせていただきました。本堂内には、竹中さんの水彩画も展示され、耳と目で芸術を楽しめたひと時となりました。



また、ピアノ伴奏をしてくださった矢島信也さんが、フルート演奏の合間に、プレスリーの曲や「冬のソナタ」のテーマ曲を弾き語りしてください、花を添えてくれました。

午前中の仏教行事の荘厳な雰囲気、そして午後の芸術的雰囲気と、充実した禅寺の一日でした。



# 第20回 花園会ゴルフ大会



【千葉セントラルゴルフクラブ、十一月十六日】前日の雨も上がり、秋晴れのなか熱戦が繰り広げられた。大会史上、最多の八組二十九名が日ごろの腕を競ったり、日ごろの運動不足解消したり、思い思いにスタートした。

前回、女性に優勝をさらわれた男性陣の奮起が期待されたが、好スコアを出した柴田祥子さんの前になすすべなく、惨敗の結果となった。柴田さんは、総合優勝・女子の部優勝そして花園会オリジナ

	氏名	グロス	ハンディ	ネット
優勝	柴田 祥子	90	31	59
準優勝	三浦 正	87	14	73
3	岡本 報顕	79	3	76
4	永倉 東岳	100	24	76
5	常世田 政信	89	12	77

	氏名	グロス	ハンディ	ネット
優勝	柴田 祥子	90	31	59
準優勝	香坂 千香子	109	32	77
3	佐藤 とも子	109	31	78

賞	氏名	スコア
ベストアップ賞	柴田 祥子	19
ベストグロス	岡本 報顕	79
ドラコン	柴田 英才	ニアピン
	武 光俊	
	柴田 祥子	柴田 祥子
	三浦 正	三浦 正
	塩月 高泰	塩月 高泰
	矢野 剛三	矢野 剛三

総合の部

女子の部

各賞

※  
 ルのベストアップ賞も獲得しての完全優勝。次回、男性陣の奮起がさらに期待される。

なお、参加者には、池ポチャ・三パットなどの罰金が課せられており、今回の罰金二万一千七百円は、新潟県中越地震の義援金として寄付させていただいた。

※ベストアップ賞

前回スコアより、一番多くスコアを縮めた人に贈られる花園会オリジナルの賞です。

◆◆歴代優勝者

花園会ゴルフ大会も二十回の節目を迎え、歴代優勝者を整理してみました。

回数	優勝者名	準優勝者名
第一回	矢野 弘明	小山 稔
第二回	記録不明	
第三回	記録不明	
第四回	宮田 宗格	福田 雅男
第五回	正岡 宗之	矢野 剛三
第六回	名護屋 敏彦	柴田 英才
第七回	宮田 宗格	西脇 利弘
第八回	大野 欣一	佐藤 征吾
第九回	佐藤 征吾	佐藤 とも子
第十回	佐藤 征吾	雨海 宏明
第十一回	永倉 東岳	正岡 宗之
第十二回	牧野 雄一郎	武 光俊
第十三回	塩月 高泰	福田 和夫
第十四回	佐藤 征吾	宮田 宗格
第十五回	武 光俊	井野 みどり
第十六回	佐藤 征吾	岡本 報顕
第十七回	永田 猛	岡本 報顕
第十八回	福田 雅男	小山 稔
第十九回	香坂 千香子	山田 勝正
第二十回	柴田 祥子	三浦 正



# 写経会

【前期期日】 【後期期日】

- 二月六日 七月三日
- 三月六日 八月七日
- 四月三日 九月四日
- 五月一日 十月二日
- 六月五日 十一月六日

【時間】

午後一時半～三時半

【会費】

一期五回で、花園会員二千円  
会員外 五千円

【用意するもの】

小筆、硯、墨、半紙

【定員】 (写経用紙はお寺で用意します。)

二十名

【申込】

お寺までご連絡ください。

【講師】

齊藤 加代子先生・住職



# 御詠歌

花園流ご詠歌の支部結成に向けて、練習をはじめていきます。ご興味のある方は、男女問わずお寺までお気軽にお問合せください。ただいま男性三名、女性四名ほどの初心者ばかりで、自主練習しています。

見学歓迎、参加更に大歓迎です。

【期日】

- 一月二十五日
- 二月二十四日
- 三月二十九日
- 四月二十六日

【時間】

午後四時～六時

【会費】

なし

【定員】

たくさん  
特に必要なし。

【申込】

問合せはお寺まで。  
鷺見 真弓



# 土曜会

この集まりは、圓福寺にご縁のある人が、お寺に集まり懇親・談笑する自由空間です。

【期日】

- 二月十九日 春の俳句講座
- 三月二十日 法話会
- 四月十六日 (未定)
- 五月二十一日 夏の俳句講座
- 六月十八日 (未定)

【時間】

土曜日午後六時～

テーマイベントの後、懇親会

【会費】

花園会員 男性 二千円

女性 千円

花園会員外 男性 三千円

女性 千円

【申込】

お寺までご連絡ください。

平成十六年下四半期お寺と和尚の記録抄

11月1日

幼稚園新入園児願書受付

来年度の新入園児として、3才児56名・4才児25名を受付しました。

5日～6日

取手長禅寺先住職十三回忌

10日～12日

寺院役員・花園会役員研修会 於本山

16日

第二十回花園会ゴルフ大会 市原セントラル

八組、二十九名参加

17日

社会保険センター、「写経」講座

19日

月例役員会

20日

土曜会「冬の俳句講座」

27日～29日

第七回四国あるき遍路の旅

(四十一番～五十番まで) 十五名参加

12月1日

社会保険センター、「写経」講座

幼稚園もちつき

花園会女性部全国大会 於熱海

月例役員会

社会保険センター、「写経」講座

歳末ボランテラ・花園会忘年会

ご詠歌練習日

大晦日・年越まいり

元旦・元朝まいり・新春ご祈禱

1月1日

31日

21日

18日

15日

11日

1日～2日

土曜会「冬の俳句会」より

落葉打つ 百の音色の 雨を聴く

奇藤 加代子

旅先の 秋をいくつも 持ち帰り

平山 実

小春日に 千したふとんで 母の夢

清水 高次郎

▽毎週木曜日午後六時～ 木曜坐禅会

坐禅三十分二回、終わって茶話。無料。初心者歓迎。

▽毎月第三土曜日午後六時～ 土曜会

お寺とあなたを結ぶ自由空間。会費二千元。

▽毎月最終火曜日午後四時～ ご詠歌練習

▽毎月第一日曜日午後一時半～三時半 写経会

「般若心経」の写経。見やすい大きさの字体です。

正座できない人のために、イスとテーブルも用意。

一期五回(事前申込制)。会費三千元。

# 平成十七年 年忌表

回忌	亡くなった年
一周忌	平成十六年
三回忌	平成十五年
七回忌	平成十一年
十三回忌	平成五年
十七回忌	平成元年
二十三回忌	昭和五十八年
二十七回忌	昭和五十四年
三十三回忌	昭和四十八年
五十回忌	昭和三十一年

本堂法要後のお斎（お食事）に、書院をお使いください。法要後の移動もなく、お参りに来られた方にご不便をかけることなくすみます。お料理も、精進料理・懐石料理などご用意できます。お寺までお問合せください。

## 第八回 四国あるき遍路の旅



愛媛、菩提の道場の二回目は、道後にある五十一番からの遍路になります。道は瀬戸内に沿って進みます。

**募集人数** 十五名（但し、人数が多い場合は二班に分ける場合もあります。）

**旅程**（あくまで予定です。）

三月四日（金）

飛行機で松山空港へ。五十一番から五十二・五十三番まで歩き。電車にて今治へ向かい、今治泊。

三月五日（土）

愛媛の難所、六十番横峰寺と、遍路ころがしといわれる遍路道を下って子安大師で有名な六十一番香園寺へ。へんろ宿または宿坊泊。

二月二十九日（日）

今治市内の五十四番から五十九番まですべて歩き。電車にて松山へ、松山空港から帰路。

**参加費** 五〜六万円ぐらいを予定しています。

## 編集後記

年末に、花園会の事務をして  
いる 稲田さん

が、十七年度の予定を年間予定表に書き込んでくれました。この予定表は、一枚の大きな紙で、一年分すべてを見ることが出来ます。

土曜会、ご詠歌、写経会など、毎月の行事が充実してきたことがわかれると共に、一年の速さを実感させてくれます。

忙しい中、年二回の四国あるき遍路は、人間の歩くスピードの中で時間が流れて行きます。効率や速さ、経済的なことを考えれば、バスやタクシーで回った方が時代にあっているのかもしれませんが、でも、その効率と引き換えに失うものが多いことも確かです。自然に感動することが少なくなった、生きていく実感が持てない、損得の勘定で物事を判断するなど・・・。

最近、スローフードということばがあるように、「スロー」は、ゆったりとした人間らしい時間を取り戻すために、「効率」より大切なキーワードになりつつあります。

圓福寺花園会

菅野光夫  
塩月高泰  
平山 実  
福田和夫  
岡本正昭  
河西達雄  
西蔭光一

